

EU Indicators

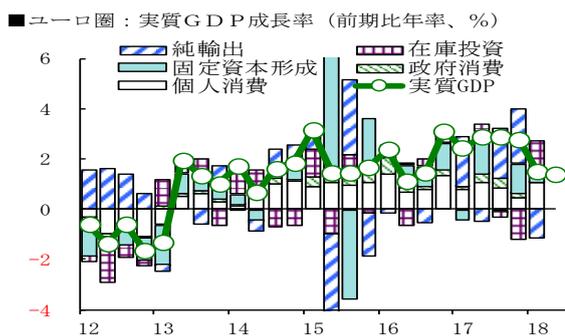
欧州経済指標コメント：4-6月期ユーロ圏GDP一次速報値

発表日：2018年7月31日(火)

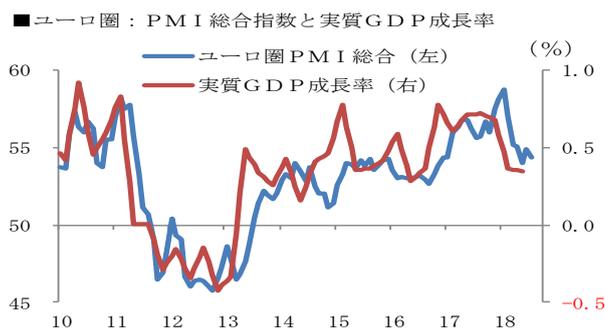
～金融政策も景気も正常化～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 4-6月期のユーロ圏実質GDP成長率の一次速報値は前期比+0.3%、同年率+1.4%と、8四半期振りの低成長にとどまった。昨年の各四半期は年率3%近くの高成長が続いてきたが、年明け以降の景気に明確なブレーキが掛かっている。1-3月期の景気減速は、寒波による建設・消費活動の停滞、フランスとドイツで相次いだストライキなど、一時的な要因が下押ししたと説明されてきた。4-6月期は前期の反動により上押しされてもおかしくなかったが、一段と減速し、振るわなかった。
- 国別詳細は8月14日に発表される二次速報値で、需要項目別の内訳は9月7日の改定値で公表される。公表済みの国別計数からは、フランス（1-3月期：同+0.2%→4-6月期：同+0.2%）とベルギー（同+0.3%→同+0.3%）が横這い、スペイン（同+0.7%→同+0.6%）、イタリア（同+0.3%→同+0.2%）、オーストリア（同+0.9%→同+0.5%）が減速。既報のフランスの内訳は、政府消費、設備投資、公共投資が加速したものの、個人消費のマイナス転落、外需のマイナス寄与が足を引っ張った。スペインは設備投資が好調を維持した一方、個人消費が減速し、輸出が冷え込んだ。
- 米欧貿易戦争がひとまず回避され、良好な雇用・所得環境が続いていることから、このまま景気が後退局面に入る可能性は低い。減速後の月次指標も高水準、成長率も巡航速度に落ちてきたに過ぎず、昨年の成長ペースが持続不可能だった。ただ、7-9月期入り後の景気指標は冷え込みに歯止めが掛かってきているものの、力強さはみられず。年後半のユーロ圏経済も大きく再加速するとは思えない。



出所：Eurostat



出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
16/7-9月期	2.1	1.5	(2.0)	1.4	0.8	3.7	(0.3)	▲ 0.5	1.4	2.8
16/10-12月期	4.4	3.1	(2.9)	2.5	1.3	5.0	(0.3)	0.2	6.2	6.2
17/1-3月期	3.0	2.4	(0.5)	1.5	0.4	▲ 2.0	(0.0)	2.0	6.6	2.6
17/4-6月期	4.8	2.9	(3.4)	2.0	1.9	8.2	(0.3)	▲ 0.5	4.5	6.1
17/7-9月期	4.6	2.9	(0.9)	1.5	2.0	▲ 0.5	(▲ 0.2)	2.0	6.1	2.0
17/10-12月期	3.8	2.8	(0.6)	0.8	1.0	5.8	(▲ 1.2)	2.2	9.7	5.6
18/1-3月期	2.9	1.5	(2.7)	1.9	0.3	1.4	(1.3)	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 1.1
18/4-6月期	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。